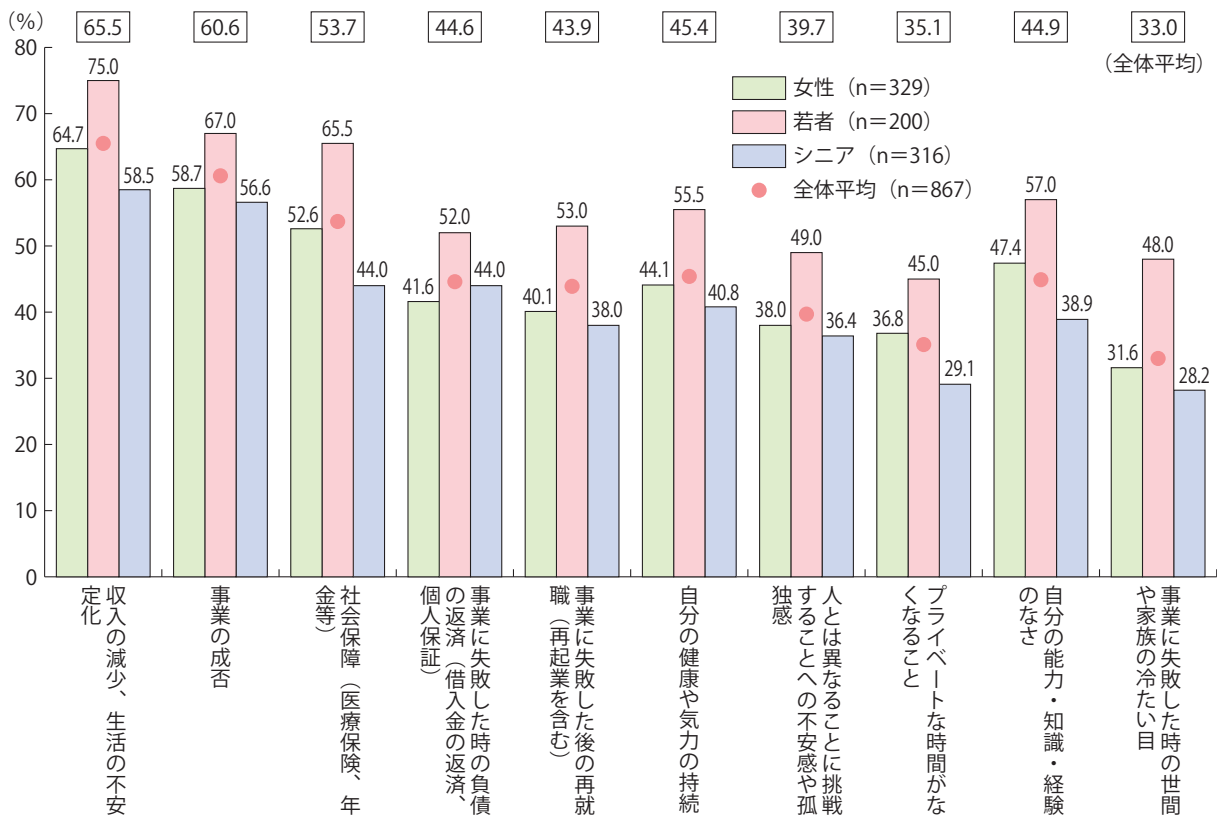


一方で、起業家は、起業時にどのような不安を感じていたのだろうか（第3-2-16図）。全体として、「収入の減少・生活の不安定化」、「事業の成否」、「社会保障（医療保険・年金等）」が高い割合を占める。女性、若者、シニアの特徴を見ると、傾向としては全体平均と類似しているが、若

者は、全ての項目について不安を感じる割合が高く、シニアは、不安を感じる割合が少ない。これは、若者ほど社会経験が少なく、また、その後の人生も長いことから、収入や社会保障、失敗した場合のリスク等に不安を感じる者が多いということが推察される。

第3-2-16図 起業家が感じる不安



資料：中小企業庁委託「日本の起業環境及び潜在的起業家に関する調査」（2013年12月、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)）  
 (注) 各項目について、「起業前に感じており、起業後も感じている」、又は、「起業前は感じていたが、起業後にはそれほど感じていない」という回答を起業前に感じている不安として集計している。

● 起業のパターン、起業の形態

次に、上記のような不安を抱えながらも、実際に起業をした者の実態に迫るために、起業パターンや起業の形態について見ていく。

第3-2-17図は、起業のパターンを表したものである。全体として、「前職で勤務していた企業を退職し、その企業とは関係を持たない形で起業」が5割近くを占め、「前職で勤務していた企業は退職したが、その企業との関係を保ちつつ独立し

て起業」が次に高い。

では、女性や若者、シニアではどのような違いがあるだろうか。女性の特徴として、「他社での勤務経験はなく、独自に起業」を選択する割合が相対的に高い。女性、とりわけ主婦等の職務経験が乏しい者が起業を成功させるためには、その経験不足を補うような、例えば「創業スクール<sup>10</sup>」のような起業を支援する取組が必要と考えられる。

<sup>10</sup> 「創業スクール」とは、全国300か所で行われ、創業支援の専門家による起業・創業に必要なノウハウを詰め込んだカリキュラム・テキストを使用して、地域の支援機関が起業・創業を支援する制度（2014年度予算案、7.5億円）。詳細はコラム3-2-3を参照。